

わいわいどきどき しんぶん の ひみつ スクープ

新聞を読みたくなる新聞

心が動くよ!
発行所 大津市 5年 松浦遙音

見るぞ 聞くぞ 体験するぞ
さあ現場へ Let's GO!!

私は、この夏、山陰中央新報の週刊さんいん学開を讀んで「夏休み親子新聞づくり見学体験会」夜の新聞印刷工場見学のイベントを申し込みました。ふだん、かんたんに見学できない新聞社や印刷工場を見学させてもらえるというところで、とても興味をもち参加することになりました。この新聞で、たくさんの人に新聞の役割や、新聞が読めるまでの過程について、見学会で知った「新聞のひみつ」を伝えたいと思います。そして、新聞を讀む人が増えてほしいです。

取材先の紹介
〇七月二十六日(金)午後九時
山陰中央新報製作センター(斐川町)
〇八月八日(木)午後一時半
山陰中央新報社(松江市)



新聞の役割とは?

①知りたいこと、知らせたいことを伝える。
②読んだ人がニュースや世の中について考える材料にする。

山陰中央新報社の清水さんのお話より
世の中には、知らないことがたくさんある。知らないことを知ると、なんでもかんでも「考える」とかできる。例えば、いじめも同じ。その人のことを知らないから起る。その人のことを知ると、いじめは「よくないよ!」おかしいよ!と考える(気づく)ことができる。

新聞のよさとは?

①ずっとあとに残る。歴史を記録できる。
②昔の出来事を調べることができる。
③とっておけば、いつでも読みかえすことができる。
④いろいろなニュースがのっている。
⑤新聞を讀むと学力アップ。
⑥新聞を讀んで身につく4つの力
思考力・表現力・判断力・コミュニケーション力

チームワークで読みたくなる新聞作り

新聞ができるまで

- ①取材と記事の作成
↓記事のチェック
- ②デスクのチェック
↓明日の記事決定
- ③デスク会議
↓原稿の写真をパソコンで読みとる
- ④整理・レイアウト
↓原稿の写真をパソコンで読みとる
- ⑤グラビアと最終チェック
↓実際に印刷しデスクの最終チェック
- ⑥データを斐川町の製作センターへ送信
思わず興味引く見出し
ハリ五輪の記事は、ハリとの時差があるため、ちよとおくれの情報発信。そのため、たくさんの人に読んでもらえるように、読んで見出しを工夫しておられます。下の写真を見てください。

私が生れた日の新聞

2013年4月22日
1部130円(現在150円)
母が保管していました。



中国では四川で大地震

新聞1部の文量
・1部26ページ
(最大32ページ)
・原稿用紙500まい以上

新聞には
・政治の動き
・世界の出来事など
・島根の出来事など
ばかりではなく
・首脳や市長の1日
・交通事故の数
・今日の歴史など
様々な情報がのっている

私の新聞活用法



私は時々、自習イトに新聞を活用しています。私が参加したイベントの記事、私が住んでいる町の記事、日の満ち欠けの記事などを切りとって、気づいたことや感じたことを書いています。続けることで学力UPすることを目指しています。

この☆マークな〜んだ?

山陰中央新報は、鳥取出版版と石見版があります。この二つの新聞を区別するには、一面の左上を注目します。☆マークがあるのが石見版です。

新聞の印刷と出荷

山陰中央新報は、斐川の製作センターですべて印刷されます。建物四階分の高さもある巨大な高速印刷機は、一時間に九万部つくり、一秒間に二十五部印刷できます。見学した時は印刷が始まって十分したら、石見方面へ配達するトラックが出發しました。四十台近くのトラックで島根県や鳥取県の販売店に送られます。販売店に新聞が届くと、チラシをさみこんで各家庭に届けられます。ちなみに、この日は私の家には、午前二時半ごろに届きました。印刷が始まって約三時間半で届きました。毎日新聞をとめない工夫
災害などで新聞が届かなくなるのを防ぐため、ロール紙は北海道や九州などから送られます。また災害時に印刷を助け合う協定を結び、災害時は他の会社の新聞を印刷することもあります。



編集後記

実は、まだまだ伝えたいことがたくさんあります。かざられた紙面で皆さんの情報をかりやすくまとめることができませんでした。また毎日の新聞にはたくさんのおもいがあふれていることがわかりました。新聞を讀んで世の中の動きを知、紙面編集、自分の考えを深めたいです。
松浦遙音